

CONTENTS

1

特集

次の保育につながる「記録」とは？

18

データから見る幼児教育 読み聞かせの実態と 言葉の発達

— 幼児期から小学生の家庭教育調査 —

目白大学 人間学部 子ども学科 准教授
荒牧美佐子先生

本誌をお手に取っていただき、ありがとうございます。

今号の特集では、「記録」を保育の質向上につなげていくために、単なる解説や記入例にとどまらない考え方や実践例をご紹介します。お役立ていただければ幸いです。

特集ではご紹介できませんでしたが、河邊貴子先生(P2～)の個人的な体験をまとめられた著書『河辺家のホスピス絵日記』(共著、聖公会出版・東京書籍)は、日々のできごとと心の動きを「記録」することの大切さや、個人の記録がやがてパブリックメモリーになっていくことなど、幼児教育に通底する「記録の力」を深く感じることができる1冊でした。

また、前号の新コーナー「幼児理解が深まった、あの頃、あの場面」がご好評いただいたため、今号でも各園の先生にお話ししていただきました。ぜひご覧ください。

『これからの幼児教育』編集部

「これからの幼児教育」2019年春号

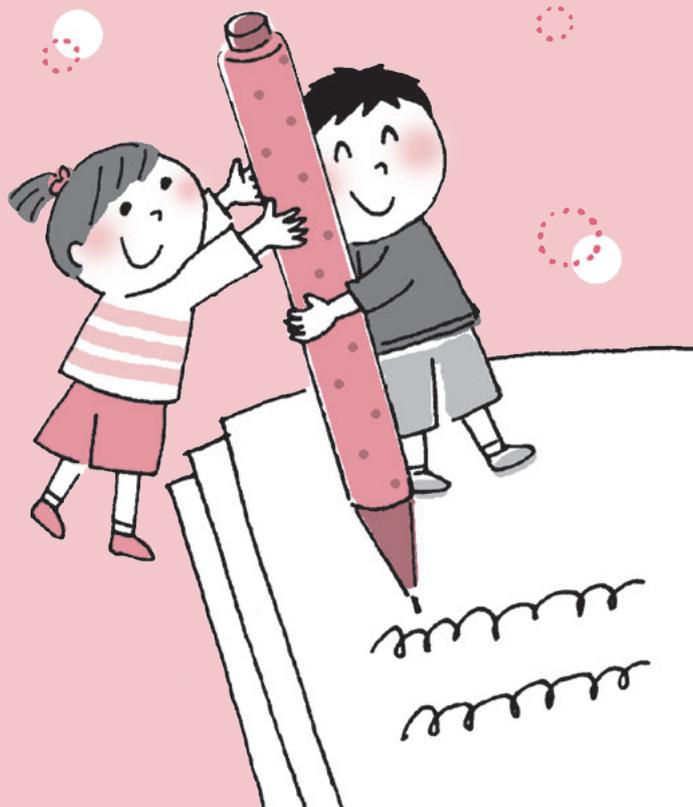
編集発行人/岡田晴奈 発行所/(株)ベネッセコーポレーション
印刷製本/凸版印刷(株)
編集協力/(有)ペンダコ、丹羽三千代 執筆協力/二宮良太
撮影協力/ヤマグチイッキ、荒川潤、谷口哲 イラスト協力/アサヌマリカ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。ここでご紹介した内容、デザインなどは変更になる場合があります。

※本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。

©Benesse Corporation 2019

次の保育に



インタビュー

P.2

「驚き」や「喜び」を記録し、 子どもの育ちを読み取って 次の援助につなげる

聖心女子大学
現代教養学部 教育学科
教授
河邊貴子先生



つながる「記録」とは？

日々の保育記録は、保育者が一人ひとりの子どもの育ちを捉えた援助のあり方を考えるために欠かせないものです。多忙な中で「何を」「どのように」記録すれば、子ども理解が深まり、保育の質向上や保育者同士のノウハウの共有、さらには保育の面白さの再発見につながるのかを考えていきます。



事例 1

p.6

「保育マップ型記録」を介して
子どもの経験や思いを
読み取る力を高める

東京学芸大学附属幼稚園
小金井園舎 (東京都・国立)

幼児理解が深まった、あの頃、あの場面
東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎 3歳児クラス担任
町田理恵先生

事例 2

p.12

めざす保育に合わせて
記録様式と内容を改善
子どもの育ちを丁寧に見取る

京都府舞鶴市社会福祉法人倉梯福祉会
さくら保育園 (京都府・私立)

幼児理解が深まった、あの頃、あの場面
さくら保育園 5歳児クラス担任
岡山和史先生